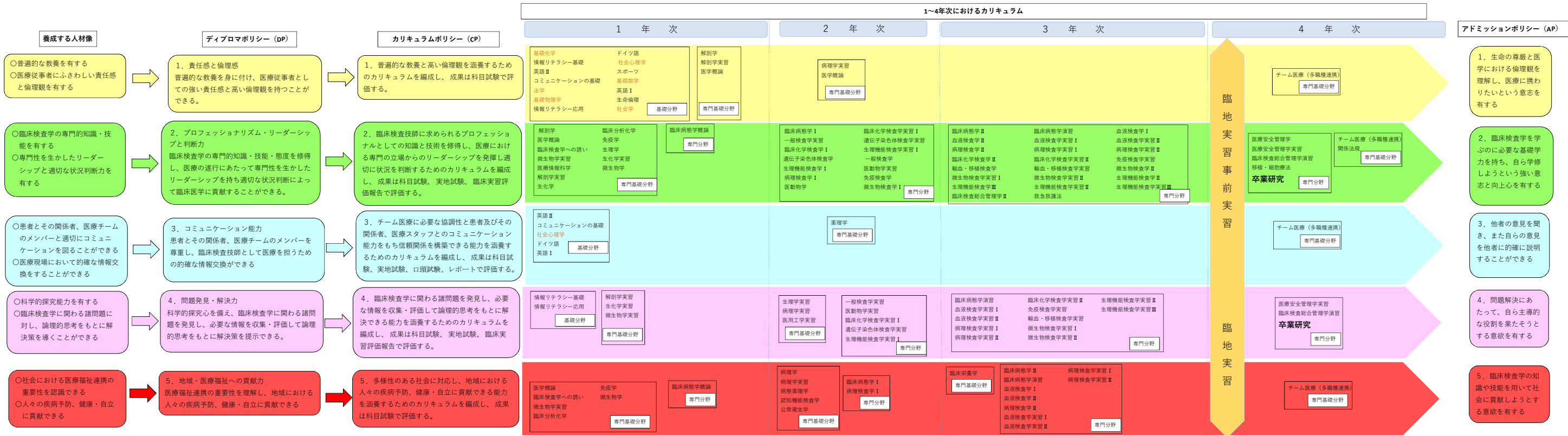


【資料1】

医療技術学部臨床検査学科 カリキュラムツリー

※黒字は必修科目、茶字は選択科目です。

※3つのポリシー（APCRDP）の対応関係は色によって示しています。



【資料2】

医療技術学部臨床検査学科カリキュラムマップ（授業科目ごと）

◎：ディプロマポリシー（DP）達成に特に重要な科目

○：DP達成に重要な科目

黒字：必修科目 赤字：選択科目

科目区分	配当年次	授業科目	身につける能力と資質（DP）	1. 責任感と倫理感 普遍的な教養を身に付け、医療従事者としての強い責任感と高い倫理観を持つことができる。	2. プロフェッショナルリズム・リーダーシップと判断力 臨床検査学の専門的知識・技能・態度を修得し、医療の遂行にあたって専門性を生かしたリーダーシップを持ち適切な状況判断によって臨床医学に貢献することができる。	3. コミュニケーション能力 患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、臨床検査技師として医療を担うための的確な情報交換ができる。	4. 問題発見・解決力 科学的探究心を備え、臨床検査学に関わる諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。	5. 地域・医療福祉への貢献力 医療福祉連携の重要性を理解し、地域における人々の疾病予防、健康・自立に貢献できる。
基礎分野	科学的思考の基盤	1	基礎化学	◎				
		1	基礎物理学	◎				
		1	基礎数学	◎				
		1	情報リテラシー基礎	◎			○	
		1	情報リテラシー応用	◎			○	
		1	英語Ⅰ	◎		○		
		1	英語Ⅱ	◎		○		
		1	ドイツ語	◎		○		
	人間の生活・社会の理解	1	生命倫理	◎				
		1	コミュニケーションの基礎	◎		◎		
		1	社会心理学	◎		○		
		1	社会学	◎				
	運動・健康・系	1	法学	◎				
		1	スポーツ	○				
専門基礎分野	人体の構造と機能	1	解剖学	○	◎			
		1	解剖学実習	◎	◎		◎	
		1	生理学		◎			
		2	生理学実習		◎		◎	
		1	生化学		◎			
		1	生化学実習		◎		◎	
		2	栄養学		◎			
		2	薬理学		◎			
	臨床検査の基礎とその疾病との関連	1	臨床検査学への誘い		◎	○		◎
		1	臨床分析化学		◎			○
		2	病理学		◎			○
		2	病理学実習	◎	◎		◎	○
		1	微生物学		◎			○
		1	微生物学実習		◎		◎	○
		1	免疫学		◎			○
		3	臨床栄養学		◎			○
		2	病態薬理学		◎			○
		2	認知機能検査学		◎			○
	と保健医療福祉に関与	1	医学概論	◎	◎			◎
		4	チーム医療（多職種連携）	◎	◎	◎		◎
		2	公衆衛生学		◎			◎
		4	関係法規		◎			
	び医療工学情報	2	医用工学概論		◎			
		2	医用工学実習		◎		◎	
		1	医療情報科学		◎			
臨床検査学	病態学	1	臨床病態学概論		◎			◎
		2	臨床病態学Ⅰ		◎			◎
		3	臨床病態学Ⅱ		◎			◎
		3	臨床病態学演習		◎		◎	○
	血液学的検査	3	血液検査Ⅰ		◎			○
		3	血液検査Ⅱ		◎			○
		3	血液検査学実習Ⅰ		◎		◎	○
		3	血液検査学実習Ⅱ		◎		◎	○
	病理学的検査	2	病理検査Ⅰ		◎			○
		3	病理検査Ⅱ		◎			○
		3	病理検査学実習Ⅰ		◎		◎	○
		3	病理検査学実習Ⅱ		◎		◎	○
		3	病理検査学実習Ⅲ		◎		◎	○

科目区分	配当年次	授業科目	身につける能力と資質（DP）	1. 責任感と倫理感 普遍的な教養を身に付け、医療従事者としての強い責任感と高い倫理観を持つことができる。	2. プロフェッショナリズム・リーダーシップと判断力 臨床検査学の専門的知識・技能・態度を修得し、医療の遂行にあたって専門性を生かしたリーダーシップを持ち適切な状況判断によって臨床医学に貢献することができる。	3. コミュニケーション能力 患者とその関係者、医療チームのメンバーを尊重し、臨床検査技師として医療を担うための的確な情報交換ができる。	4. 問題発見・解決力 科学的探究心を備え、臨床検査学に関わる諸問題を発見し、必要な情報を収集・評価して論理的思考をもとに解決策を提示できる。	5. 地域・医療福祉への貢献力 医療福祉連携の重要性を理解し、地域における人々の疾病予防、健康・自立に貢献できる。
専門分野	一般検査便等	2	一般検査学		◎			
		2	一般検査学実習		◎		◎	
		2	医動物学		◎			
		2	医動物学実習		◎		◎	
	免疫化学的検査	2	臨床化学検査学Ⅰ		◎			
		3	臨床化学検査学Ⅱ		◎			
		2	臨床化学検査学実習Ⅰ		◎		◎	
		3	臨床化学検査学実習Ⅱ		◎		◎	
		2	免疫検査学		◎			
		3	免疫検査学実習		◎		◎	
	遺伝子関連	2	遺伝子染色体検査学		◎			
		2	遺伝子染色体検査学実習		◎		◎	
	輸血・移植	3	輸血・移植検査学		◎			
		3	輸血・移植検査学実習		◎		◎	
		4	移植・細胞療法		◎			
	微生物学的検査	2	微生物検査学Ⅰ		◎			
		3	微生物検査学Ⅱ		◎			
		3	微生物検査学実習Ⅰ		◎		◎	
		3	微生物検査学実習Ⅱ		◎		◎	
		3	微生物検査学実習Ⅲ		◎		◎	
	生理学的検査	2	生理機能検査学Ⅰ		◎			
		3	生理機能検査学Ⅱ		◎			
		3	生理機能検査学Ⅲ		◎			
		2	生理機能検査学実習Ⅰ		◎		◎	
		3	生理機能検査学実習Ⅱ		◎		◎	
		3	生理機能検査学実習Ⅲ		◎		◎	
		3	救急救護法		◎			
	臨床検査総合管理学	2	臨床検査総合管理学Ⅰ		◎			
		3	臨床検査総合管理学Ⅱ		◎			
		4	臨床検査総合管理学演習		◎		◎	
	医療安全管理	4	医療安全管理学		◎			
		4	医療安全管理学実習		◎		◎	
	実臨床	4	臨地実習事前実習	○	◎	◎	◎	◎
		4	臨地実習	◎	◎	◎	◎	◎
		4	卒業研究		◎		◎	

【資料3】

科目名	コミュニケーションの基礎			担当教員	継田雅美・吉田保子・笠原聡		
選択区分	必修	授業形態	演習	単位数	1	履修年次	1

【授業概要】

臨床の場面においては、臨床検査技師は知識やスキルが身に付いていることはもちろんのこと、医療人としてのコミュニケーション力が重要となる。この授業では、コミュニケーションの基礎とともに様々な場面での医療コミュニケーションをグループ討論を行いながら学ぶ。

【到達目標】

1. コミュニケーション・医療コミュニケーションについて説明できる。2. 相手の立場によって、コミュニケーションが異なることを理解し、適切な聴き方を通じて相手を理解できる。3. 適切な手段により自分の考えを相手に伝えることができる。4. 様々な場面でのコミュニケーションの重要性を理解できる。

【授業計画】

回	授業内容	担当者
1	ヘルスコミュニケーション	継田・吉田・笠原
2	患者・医療者関係とコミュニケーション1 患者・医療者関係の変化	継田・吉田・笠原
3	患者・医療者関係とコミュニケーション2 医療場面におけるコミュニケーション	継田・吉田・笠原
4	相互理解のためのコミュニケーション、情報提供のためのコミュニケーション	継田・吉田・笠原
5	医療職連携のコミュニケーション：討論	継田・吉田・笠原
6	医療職連携のコミュニケーション：発表	継田・吉田・笠原
7	オンラインにおけるコミュニケーション：討論	継田・吉田・笠原
8	オンラインにおけるコミュニケーション：発表	継田・吉田・笠原

【教科書】

書名	著者・編者	出版社
保健医療専門職のためのヘルスコミュニケーション学入門	石川 ひろの	大修館書店

【成績評価方法】

定期試験40%、レポート30%、観察記録20%、口頭試験10%

【連絡先】

氏名	オフィスアワー	研究室(場所)	E メールアドレス
継田 雅美	8:00-17:00	C203	tsugita@nupals.ac.jp
吉田 保子	9:00-18:00		
笠原 聡	9:00-18:00	F408	

【その他】

試験の解答と解説をフィードバックする。

【資料4】

科目名	臨床検査への誘い			担当教員	吉田 保子・伊藤 正行・笠原 聡		
選択区分	必修	授業形態	演習	単位数	1	履修年次	1

【授業概要】

他の医療職に比べて、臨床検査技師の職業理解は乏しい。これから、臨床検査の専門知識を学ぶために、臨床検査の全体像を理解しておくことが重要である。本講義では、各種臨床検査の内容と意義を学び、臨床検査の全体像を把握する。さらに、実臨床における臨床検査の意義と臨床検査技師の役割について理解を深める。

【到達目標】

- ・常に社会に目を向け、生涯にわたって社会で信頼される臨床検査技師となるために必要な心構えを身につける。
- ・検査技術科学の学問体系および自主的学習の大切さを理解し、学習の目的意識を明確に持つ。
- ・臨床検査に必要な知識を学ぶために、各種臨床検査の内容と意義を理解する。
- ・実臨床における臨床検査の意義と臨床検査技師の役割を説明できる。

【授業計画】

回	授業内容	担当者
1	臨床検査の全体像(医療現場における臨床検査技師の意義と使命)	吉田・伊藤・笠原
2	生化学検査・一般検査	吉田・伊藤・笠原
3	感染症検査(細菌、真菌、ウイルス、寄生虫)	吉田・伊藤・笠原
4	病理検査	吉田・伊藤・笠原
5	生理機能検査	吉田・伊藤・笠原
6	血液学的検査、輸血・移植検査、遺伝子・染色体検査	吉田・伊藤・笠原
7	病院の検査業務	吉田・伊藤・笠原
8	検査センターの業務	吉田・伊藤・笠原

【教科書】

書名	著者・編者	出版社
教科書に関しては、[その他]参照 参考書:医学領域における臨床検査学入門 第4版	藤田保健衛生大学『臨床検査学入門』編集委員会	KTC中央出版

【成績評価方法】

課題レポート30%、口頭試験30%、定期試験30%、観察記録10%

【連絡先】

氏名	オフィスアワー	研究室(場所)	E メールアドレス
吉田 保子	9:00-18:00		
伊藤 正行	9:00-18:00	F408	
笠原 聡	9:00-18:00	F408	

【その他】

プリントをその都度配布する。

【資料5】

科目名	チーム医療(多職種連携)			担当教員	継田 雅美・青木 定夫・田嶋 明彦 ・諸橋 麻紀(兼担)		
選択区分	必修	授業形態	講義・演習	単位数	2	履修年次	4

【授業概要】

医療現場はチームで成り立っている。その中での臨床検査技師の役割は、常に正確で精度よくタイムリーに検査情報を提供することである。臨床検査技師として、様々な医療チームが存在する医療現場でその一員として活躍できるよう、多種多様な実例を用いながら学修する。また、チーム医療の実際や患者との会話の具体的理解を学ぶ。これらに加え、医療系総合大学で学ぶ利点を活用して、多職種連携の考え方とその意義について理解することを目指す。

【到達目標】

1. チーム医療の重要性を理解できる。2. 医療チームにおける臨床検査技師の役割を説明できる。3. 他の医療スタッフへの適切な支援ができる。4. 患者に対する直接支援ができる。

【授業計画】

回	授業内容	担当者
1	チーム医療総括、必要となるスキル	継田
2	チーム医療に必要となるスキル(討論)	継田・青木・田嶋
3	チーム医療に必要となるスキル(発表)	継田・青木・田嶋
4	チームアプローチの実際	継田
5	臨床検査技師のチーム医療における役割(討論)	継田・青木・田嶋
6	臨床検査技師のチーム医療における役割(発表)	継田・青木・田嶋
7	チーム医療における検査技師の役割、医療スタッフへの支援の実際	田嶋
8	チーム医療における医師の役割	青木
9	チーム医療における看護師の役割	諸橋
10	チーム医療における薬剤師の役割	継田
11	患者への直接支援の実際	青木
12	事例研究:救急医療における検査技師の役割(討論)	継田・青木・田嶋
13	事例研究:救急医療における検査技師の役割(発表)	継田・青木・田嶋
14	総合討論:臨床検査技師のチーム医療における役割(討論)	継田・青木・田嶋
15	総合討論:臨床検査技師のチーム医療における役割(発表)	継田・青木・田嶋

【教科書】

書名	著者・編者	出版社
JAMT技術教本シリーズ 臨床検査技師のためのチーム医療教本	日本臨床衛生検査技師会	じほう

【成績評価方法】

定期試験30%、口頭試験30%、レポート30%、観察記録10%

【連絡先】

氏名	オフィスアワー	研究室(場所)	E メールアドレス
継田 雅美	8:00-17:00	C203	tsugita@nupals.ac.jp
青木 定夫	9:00-18:00	F402a	saoki@nupals.ac.jp
田嶋 明彦	9:00-18:00		
諸橋 麻紀	9:00-18:00		morohashi@nupals.ac.jp

【その他】

試験の解答と解説をフィードバックする。

【資料6】

科目名	臨地実習事前実習			担当教員	田嶋明彦・吉田保子・伊藤正行 ・内山孝由・継田雅美・笠原聡・清水美穂		
選択区分	必修	授業形態	実習	単位数	1	履修年次	4

【概要】

臨地実習に向けて、必要とされる知識、技術、並びに、コミュニケーション技術について総合的に学ぶ。また、臨地実習実施に向けて、到達度評価(実技試験)を行う。

【到達目標】

・臨地実習で実施される技術の目的、手法を理解し、検査結果を患者に説明できるレベルまで身につける。・チーム医療に必要なコミュニケーション能力を身につける。・患者とのコミュニケーションを身につける。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容	担当者
1	臨地実習事前実習 ガイダンス	事前実習と到達度評価試験(実技試験)の概要を説明する。	田嶋・吉田・伊藤・ 内山・継田・笠原・ 清水
2～20	臨地実習事前実習	3年次までに学習した臨床検査技法について、知識と技術の確認を行う。	田嶋・吉田・伊藤・ 内山・継田・笠原・ 清水
21～25	到達度評価試験	技能の習熟度を確認するため、グループ分けし実技試験を行う。	田嶋・吉田・伊藤・ 内山・継田・笠原・ 清水

【教科書】

書名	著者・編者	出版社
【その他】に記載。		

【成績評価方法】

到達度評価試験70%、口頭試験30%

【連絡先】

氏名	オフィスアワー	研究室(場所)	E メールアドレス
田嶋 明彦	9:00-18:00		
内山 孝由	9:00-18:00	F402	uchiyamat@nupals.ac.jp

【その他】

「臨地事前実習マニュアル」を配布する。

【資料7】

科目名	臨地実習			担当教員	田嶋明彦・継田雅美・吉田保子・内山孝由・伊藤正行・青木定夫・笠原聡・清水美穂		
選択区分	必修	授業形態	臨	単位数	11	履修年次	4

【概要】

臨床実習病院において、病院検査室の見学と臨床検査業務を体験する。実際の臨床検査業務に参加することにより、学習のみでは学べない現場での学びを通して、職業理解を進めると同時に、医療者としての自覚と倫理を身に着ける。これらの過程において、臨床検査技師が職業人としてどうあるべきかを考察する。また、各専門分野をローテーションし検査業務を体験することで、その分野の臨床検査の実際についても学ぶ。

【到達目標】

・臨床検査の現場において、実際の臨床検査に必要とされる基本的な実践技術を習得する。・社会人、医療人としての倫理観を身に着ける。・医療チームメンバーとしての役割、責任を理解し、その自覚を持ち、積極的に検査情報をもとに病態を考察していく方法を身に着ける。

【授業計画】

回	授業項目	授業内容	担当者
1	臨地実習オリエンテーション	臨地実習における習得事項、注意事項等を確認する。	田嶋・継田・吉田・内山・伊藤・青木・笠原・清水
2	臨地実習	実際の医療現場において、臨床検査技師の指導を仰ぎながら、実臨床での臨床検査技師の業務を体験することで、学内の講義、実習で得た知識や技術が臨床現場でどのように活かされているのかを理解し、身につける。臨地実習においては、実践技術を習得すると共に、実臨床ならではの緊張感を体験し、患者との適切な対応や、チーム医療の一員としての臨床検査技師の役割や責任を理解し、身につける。 医療機関においては、以下の実習を行う。 ・生理学的検査：標準12誘導心電図検査、肺機能検査（スパイロメトリー） ・検体検査：血球計数検査、血液塗抹標本作成と鏡検、尿定性検査、血液型検査、培養、グラム染色検査 医療機関においては、以下の見学を行う。 ・生理学的検査：ホルター心電図検査の器具装着、スパイロメトリー以外の肺機能検査、脳波検査、負荷心電図検査、超音波検査（心臓、腹部）、足関節上腕血圧比（ABI）検査 ・抗体検査：精度管理、メンテナンス作業、臓器きりだしと臓器写真撮影、迅速標本作成から報告 ・その他採決室業務、検査前の患者への説明（NST、ICT、糖尿病療養指導）、検体採取、	臨地実習指導者
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			

【教科書】

書名	著者・編者	出版社
【その他】に記載。		

【成績評価方法】

事前実習の技能習得到達度評価、口頭試験と実習の評価項目、実習記録、及びレポートを基に評価する。

【連絡先】

氏名	オフィスアワー	研究室（場所）	E メールアドレス
田嶋 明彦	9:00-18:00		
吉田保子	9:00-18:00		

【その他】

「臨地実習マニュアル」を配布する。